

百年の作法

お客様をお迎えする一本道があります。

父は当館へ続くこの道を何より大切にしておりました。

落ち葉を見つければ誰よりも早く掃き、枝が落ちていれば車を止めて片づけました。

この道はただの通り道ではなく、最初のおもてなしの場である…

父からそう教わりました。父も祖父から教わったと聞きます。

二十八年前、私は家業である親湯温泉に戻りました。

当館へと続く六百メートルの道を毎朝掃く父の姿に、正直、反発を覚えました。

利益に直結する仕事を優先すべきだと考えていたからです。

父の掃除を手伝っていた社員を別の業務に回し、父をひとりにしてしまいました。

それでも父は、風の強い翌朝には、何事もなかったかのように箒を取り、

その一本道を掃き続けていました。

やがて父が入院し、道を掃く人がいなくなりました。

落ち葉や砂塵がたまり、道の端で腐り、雨のたびにぬかるみが目立つようになりました。

しばらくすると、お客様の数が目に見えて少なくなっていました。

他の旅館のお客様が増えている時期でさえ、当館だけはその波に乗れませんでした。

私は以前の活気に戻そうと、大きな広告費を投資し続けました。

しかし、お客様の数はほとんど変化が表れず、忸怩たる思いだけをつのらせました…。

ある朝、泥の轍が蛇のように伸びる一本道が目に入りました。

その光景を前にして、ようやく気づきました。

最初の一步であるこの道を、長いあいだ放置してしまっていたのだと。

掃くことは小さな掃除ではありませんでした。

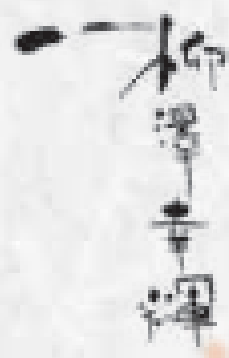
私たちの大切な作法だったのです。

私たちは今も、道を掃き続けています。特別なことはいたしません。

これからも代々続く作法を守り続けるだけです。

二〇二六年六月 吉日

親湯温泉 四代目館主



2026年6月1日。蓼科親湯温泉は、創業百周年を迎えました。

長野県の皆様をはじめ、今日まで当館を支えてくださったすべての皆様に、心より御礼申し上げます。



蓼科親湯温泉

創業大正十五年